

**第39回（2007年度）サントリー音楽賞は  
細川俊夫 氏に決定**

財団法人 サントリー音楽財団（理事長・堤剛）は、わが国の洋楽の発展にもっとも顕著な業績をあげた個人または団体に贈る「サントリー音楽賞」の第39回（2007年度）受賞者を細川俊夫氏に決定しました。

●選考経過

1. 2008年1月12日（土）東京・丸の内の東京會館において、選考委員9名により第一次選考を行い、「候補者」を選定した。
2. 引き続き3月1日（土）東京・丸の内の東京會館において最終選考会を開催、慎重な審議の結果、第39回（2007年度）サントリー音楽賞受賞者に細川俊夫氏が選定され、3月4日（火）理事会において正式に決定された。

●賞金は700万円。

●細川俊夫氏の贈賞理由は別紙のとおり。

●選考委員は下記の9氏。

礒山 雅・伊東信宏・岡田暁生・岡部真一郎・白石美雪  
榎崎洋子・沼野雄司・船山 隆・三宅幸夫

（敬称略・50音順）

## <贈賞理由>

細川俊夫氏の音楽活動は、主に以下の2つの点において「わが国の洋楽文化の発展にもっとも功績のあった個人」としてふさわしいものである。

まず第一に作曲家として、世界の最前線で活躍している点。氏の国際的な活動は、日本の作曲家としては前人未踏といってよいものであるが、2007年に関しても、ドイツ、スイス、アメリカ、ポーランドなどにおける世界初演に加えて、代表作のオペラ『班女』がドイツで演奏されるなど、目覚ましい成果を見せた。とりわけ特筆すべきなのは、オーケストラ作品2作が日本（東京）で世界初演されていることである。これまでの活動の集大成といえる「空の風景」（1月、大友直人指揮、東京交響楽団により初演）、そして音楽の動的な性格において新境地が認められる「ダンス・イマジネール」（10月、下野竜也指揮、読売日本交響楽団により初演）は、共に細川氏の作品全体の中でも里程標といえる重みをもった作品として高く評価できる。さらに、いまだ日本での初演がなされていなかった「循環する海」が11月に東京で演奏されたことも（準メルクル指揮、リヨン国立管弦楽団）、日本の音楽界に大きな刺激を与えることになった。

そして第二に、国内の音楽祭の企画に関わる中で、日本の若手音楽家（特に作曲家）を強力に支援してきた点。現在、華々しい活躍を遂げている40代以下の日本の作曲家たちの中で、細川氏の関わった音楽祭と関わりのないものを探すことは難しい。氏のこうした活動は80年代末から強い意志を持って継続されているが、今年度も武生国際音楽祭という場において、多くの後進を指導するに至った。細川俊夫の存在は日本とヨーロッパを「現代音楽」という場を通じて積極的に媒介するものであり、その成果と功績は計り知れない。

以上の理由により、細川俊夫氏に第39回サントリー音楽賞を贈賞する。

<略 歴>

細川俊夫（ほそかわ・としお） 作曲家

1955年、広島に生まれる。1976～87年ドイツ留学。ベルリン芸術大学でユン・イサンに、フライブルク音楽大学でクラウス・フーバーに作曲を師事。ベルリン・フィル創立100周年記念作曲コンクール第1位（1982）、中島健蔵賞（1988）、ラインガウ音楽賞（1998）、デュイスブルク音楽賞（1998）、ARD-BMW ムジカ・ヴィヴァ賞（2001）受賞。2001年、ドイツ・ベルリンの芸術アカデミー会員に選ばれる。2006年から2007年にかけてベルリン高等研究所からフェロー（特別研究員）として招待された。ダルムシュタット国際現代音楽夏期講習会（1990・2006）を始め世界各地のセミナーで講師を務めるほか、ザルツブルク音楽祭（2005）、ウィーン・モデルン音楽祭（1995）、ルツェルン国際音楽祭コンポーザー・イン・レジデンス（2000）など、重要な国際音楽祭から招待作曲家として招かれ、作品が演奏されている。

1998年ミュンヘン・ビエンナーレにおいて、初のオペラ『リアの物語』（鈴木忠志の台本・演出）を初演。2004年エクサンプロヴァンス音楽祭の委嘱により、オペラ『班女』（原作 三島由紀夫）初演、モネ劇場で再演。2005年8月、ザルツブルク音楽祭において、同音楽祭委嘱の「循環する海」がゲルギエフ指揮ウィーン・フィルによって世界初演、2006年には、北ドイツ放送によるモーツァルト生誕250年記念委嘱の「月夜の蓮」が初演された。

1989年から10年間、秋吉台国際20世紀音楽セミナー&フェスティバルの音楽監督。1998・2007年東京交響楽団のコンポーザー・イン・レジデンス。2001年より武生国際音楽祭音楽監督。2004年より東京音楽大学客員教授。

以 上

<ご参考>

サントリー音楽賞について

(財)サントリー音楽財団では、1969年の設立以来、わが国における洋楽の振興を目的として、毎年、その前年度においてわが国の洋楽文化の発展にもっとも顕著な功績のあった個人又は団体を顕彰し、「サントリー音楽賞」(旧名・鳥井音楽賞)を贈呈しています。賞金は700万円。

これまでに「サントリー音楽賞」を受賞した方々は下記の通りです。

第1回	1969年度	小林 道夫 (ピアノ・チェンバロ・指揮)
第2回	1970年度	堤 剛 (チェロ)
第3回	1971年度	三谷 礼二 (オペラ演出)
第4回	1972年度	小川 昂 (理論・評論)
第5回	1973年度	ICUオルガン委員会 (国際基督教大学)
第6回	1974年度	秋山 和慶 (指揮)
第7回	1975年度	栗林 義信 (声楽) 山根 銀二 (評論)
第8回	1976年度	芥川 也寸志と新交響楽団
第9回	1977年度	常森 寿子 (声楽)
第10回	1978年度	松村 禎三 (作曲)
第11回	1979年度	吉原 すみれ (打楽器)
第12回	1980年度	妹尾 河童 (舞台美術)
	特別賞	江戸 英雄 (第1回日本国際音楽コンクール会長)
第13回	1981年度	柴田 南雄 (作曲)
第14回	1982年度	外山 雄三 (指揮)
	特別賞	原 清 (ザ・シンフォニーホール建設グループ代表)
第15回	1983年度	鈴木 敬介 (オペラ演出)
第16回	1984年度	豊田喜代美 (声楽)
第17回	1985年度	日本テレマン協会 (室内管弦楽団・合唱団)
第18回	1986年度	内田 光子 (ピアノ) 若杉 弘 (指揮)
第19回	1987年度	岩城 宏之 (指揮)
第20回	1988年度	林 康子 (声楽)
第21回	1989年度	有田 正広 (古楽演奏)
第22回	1990年度	武満 徹 (作曲)

第23回	1991年度	尾高 忠明（指揮）
第24回	1992年度	練木 繁夫（ピアノ）
第25回	1993年度	五嶋みどり（ヴァイオリン）
	特別賞	ウォルフガング・サヴァリッシュ（指揮）
第26回	1994年度	和波 孝禧（ヴァイオリン）
第27回	1995年度	今井 信子（ヴィオラ）
第28回	1996年度	園田 高弘（ピアノ）
		湯浅 譲二（作曲）
第29回	1997年度	東京交響楽団
第30回	1998年度	林 光（作曲）
第31回	1999年度	三善 晃（作曲）
第32回	2000年度	飯守泰次郎（指揮）
第33回	2001年度	一柳 慧（作曲）
第34回	2002年度	小澤 征爾（指揮）
		木村かをり（ピアノ）
第35回	2003年度	野平 一郎（作曲、ピアノ）
第36回	2004年度	西村 朗（作曲）
第37回	2005年度	鈴木 秀美（チェロ・指揮）
第38回	2006年度	東京混声合唱団
特別贈賞	1979年6月	巖本真理弦楽四重奏団
〃	1997年8月	黛 敏郎（作曲）

以 上